



諏訪田製作所 妥協もごまかしもない 最高品質のつめ切り

1926年創業の金属加工会社。創業時に喰切を製造していた技術を活かして作られた、デザイン性が高く使い心地の良いつめ切りは、近年はSUWADAの名で世界的にも有名だ。

職人たちは、原材料の選定から検品・メンテナンスまで、一つひとつの作業に時間をかけ、こだわる。自らの目で金属の色を一つひとつ確かめ、ほどよい温度で鍛造する。研磨材料を変えながら50にのぼる工程を経て金属を磨き、削る。2枚の刃の間に、0.01ミリの隙間のないように合刃する。こうして作られた爪切りは一つひとつ丁寧に検品され、消費者のもとに届く。SUWADA OPEN FACTORYでは予約なしで作業風景を見学でき、SUWADAのクラフトマンシップを体験できる。



〔問〕 三条市高安寺1332
TEL. 0256-45-6111

探検、体験。道具が生まれる工場たち。

2019年10月3日(木)~6日(日)

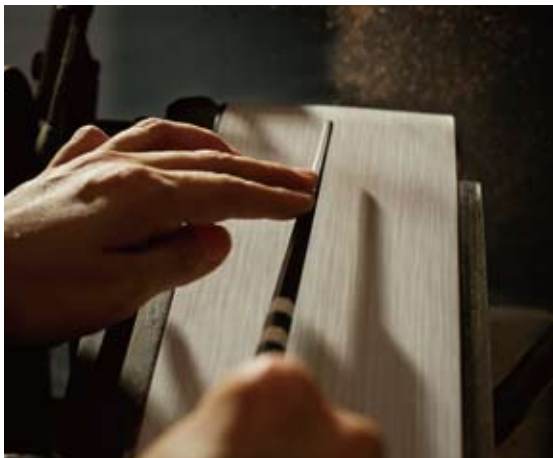
燕三条 工場の祭典

金 属加工を中心としたものづくりの街である新潟・燕三条にて、工場を公開し、製造現場を体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」が開催された。機械化や製品価格の低下、後継者不足などの様々な課題を抱える工場の状況を打開しようとして、燕市と三条市が協同して始まった本イベントは今年で7回目。参加事業所や来場者数は年々増加しており、今年もにぎわいをみせた。



製造を副業とし、その技術を開墾用農機具の製造、さらに刃物鍛冶へと発展させた。

一方、燕では江戸時代に鋤起銅器の製法が伝えられ、大正時代には洋食器の生産など金属加工の技術が発達。その後、燕三条の優れた金属製品は海運の発達により日本全国に広まり、現在では世界各国からも高い評価を受けている。



〔問〕 三条市矢田1662-1
TEL. 0256-45-7001

マルナオ 人々を魅了する口当たりの良さ 世界も評価するマルナオの箸

1939年に創業したマルナオは箸を中心とし、木製のスプーンやステーションナリーなどを製造する。創業当時の寺社の彫刻技術は現在まで受け継がれ、ものづくりの本質を追及するマルナオの職人魂とあいまって、美しい仕上がりの製品が作られている。

マルナオの箸には、厳選された地域の黒檀・紫檀などが使われる。長い年月をかけて天然乾燥された木材は、箸の先端が1.5mmの八角形になるまで削られ、組立される。削りと乾燥と調湿を繰り返しながら、0.5ミリずつ丁寧に鉋がけしたのち、口当たりがよくなるまで研磨する。こうして作られたこだわりの箸やスプーンは、10月に出版したばかりのパリに直営店にも並び、世界に発信される。

角利製作所 安全で高品質な道具で くらしを支える

良い材料・良い鍛造・良い熱処理・良い研磨。角利製作所が高品質の製品をつくることへのキーワードだ。角利製作所は1946年の創業後、60年にわたって木工職人や日曜大工・DIY愛好家、そして教育現場などに向けて道具を供給してきた大工道具専門メーカーである。社長の気さくな性格とパッションで、日本はもちろん、海外のマーケットも開拓してきた。

質の高い角利製作所の製品は、グッドデザイン賞も受賞している。工場の祭典で体験した鯉節削り器「鯉音」は、軽い力で安全に鯉節を削ることができる。その削り心地の滑らかさと、削った時の香りがたまらない。職人が一枚ずつ丁寧に作った刃を、是非一度ご体験あれ。



〔問〕 三条市西本成寺2-3-53
TEL. 0256-35-1115

ミノル製作所

技術の継承と作業効率化に挑む！
工場のチェンジ・メイカー

工場の奥に進むと、若い職人が長い棒を高速回転する金属にあて、体重移動を利用して加工している。金属板の塑性加工技法「へら絞り」だ。真鍮のへら棒を使用し、硬いステンレスの板を円柱型に加工していく。力のかけ方やへら棒の動かし方で、円柱の淵などの細かい部分の形が変わってしまう。全て同じ形に生産できるようにするには、何年もの修行が必要だ。

2016年創業のミノル製作所では、へら絞り職人の後継者不足を打開しようと、若手の職人を一流になるまで丁寧な育てる。人手不足を補うために機械も利用しながら、試作品製作から中ロットまで、幅広い対応が可能。課題に立ち向かい、未来に向けてものづくりに挑戦する。



〔問〕 燕市小高995
TEL: 0256-47-1364



〔問〕 三条市大面65
TEL: 0256-45-2249

カネコ総業

食・農を支える
一流の木工加工技術

1957年に創業したカネコ総業は、当初は工具類の柄の加工を行っていた。現在では木工加工をはじめ、農具・園芸用品・キッチン用品などを製造する。木造で趣のある工場は、廃校した小学校の校舎を移設したもので、合掌づくりの高い屋根が木材加工に適している。

長年培った木工加工技術を活かした木製キッチンツール「YORISO」。1mm以下の繊細な領域の加工にまでこだわったお箸は、掴みやすさに長けている。また農林水産省が推奨する「農業女子プロジェクト」にも参画。軽くて握りやすく、女性が好むデザインの「Lacuno」は、今までにない驚きの切れ味と優れた耐久性をもつ。農業女子の間で人気を高め、農業を選択する女性の増加も期待される。



〔問〕 燕市東太田16-1
TEL: 0256-62-3234

武田金型製作所

精度の高さは一目瞭然！
マジックメタルが魅せる金型技術

1978年に創業した、精密部品などのプレス金型を製造する金型専門メーカー。携帯電話や自動車など、多くの製品の部品は金型を用いてつくられている。ものづくりの「縁の下」の力持ちのような存在である武田金型製作所だが、ふだん見ることができない金型の高い技術力を、人々に分かりやすく伝えたいと感じていた。

そこで作られたのがマジックメタル。一見するとツヤのある金属の塊だが、ボタンを押すと文字が浮き出てくる。文字と枠を別に制作し、3/1000mmの隙間で両者を結合させた。文字が浮き出てきたときの驚きと、そこから感じる技術力の高さはインターネットなどのメディアでも取り上げられ、世界的にも注目されている。

玉川堂

創業203年の老舗による
至高の鉦起技術

1816年の創業以来、無形文化財である鉦起銅器の技を継承し、銅器づくりに励んできた玉川堂。茶器や酒器、花器など幅広い銅器を製造する。

窓が大きく明るい工場に入ると、銅を金鉦で打つ音が高い天井に鳴り響く。製品によって、数百種類にも及ぶ金鉦や当金などを駆使しながら、1枚の銅板を加工する。一度金鉦で打った銅板は硬くなるため、何度も銅板を熱しながら作り上げていく。何万回と打った後に模様や独自の着色がほどこされた銅器は、使えば使うほど色の深みや光沢がでて「自分だけの」逸品となる。数々の技術が集結した銅器は、世界中から高い評価を受けている。



〔問〕 燕市中央通2-2-21
TEL: 0256-62-2015

長谷弘工業

社長のチャレンジ精神が
生み出した最高音質のスピーカー

木材と金属加工をしている工場に入ると、「当社社長考案のヒット商品＆没商品（笑）」という展示台が目につく。1950年の創業以来、社長自らアイデア商品を考案し、時には失敗しながら学び、製品の改良に努めてきた。

長谷弘工業では、ユニックブランドのハンドツール、鳥獣害忌避商品などを主に製造、販売している。1975年頃よりオーディオ業界に参入し、製造してきたバックロードホーンスピーカーは、今では看板商品である。管楽器のような構造をしたスピーカーにはいくつ種類があり、聴く音楽のジャンルによって柔らかく優しい響きや、生演奏のようなリアルな音が楽しめる。



〔問〕 三条市西本成寺2-6-11
TEL: 0256-34-8890